

優秀賞 「食の安全について」

香芝市立旭ヶ丘小学校 6年 豆川 秀太

「お母さん、おにぎり作っといてや。」と、仕事に行く前の母に言いました。

一年前のぼくには、考えられないことです。ぼくは、ファーストフードのチキンナゲットやコンビニのおにぎりが大好きでした。出かけた時には、必ず買ってもらっていました。しかし、ある時のニュースやテレビ番組の特集を見て、お店で売っている物には、なんらかのてん加物（おいしくするためのものやくさなくなるもの）が入っていることがわかりました。テレビ番組ではそれをとってもリアルに検証していました。それを見てから、『体に悪い』と強れつに思いました。その日を境に、「秀太、何買う。」とか、「どれ買うの」と言われても、「ぼくいいわ。」というようになりました。お姉ちゃんに、「秀太、どうしたん。」といわれると「お姉ちゃん、知らないの。てん加物のこと」といって説明すると、「そうやな、学校の家庭科でもなったな。」と話してくれました。それ以来、おにぎりは、家で作ってもらいます。お母さんの心のこもったおにぎりは、形が少しおかしくても、塩が効きすぎていてもとってもおいしいし、安全です。

そういうこともあってかぼくの家では、2年前から夏になると、ゴーヤを家で作っています。リビングの温度を下げるためと、無農薬でつくるための一石二鳥です。水やりがぼくの仕事です。去年は、りっぱなスーパーに売っていきそうなのがたくさんできました。でも、今年は、小さいのが5、6個です。何が原因かわかりません。ぼくの和歌山に住んでいる祖父は、キュウリを作っていてよくとれたてをもってきてくれます。ぼくたちのためにやはり無農薬で作ってくれています。野菜があまり好きでないぼくも、祖父の作ったキュウリだけは、食べます。

「どうしてなんだろう。」と考えました。体に良いものだから、キュウリやゴーヤ、おにぎりも心がこもっているからの二つが思い浮かびました。人間が生きていくためには安全な食品が第一なんだとも思います。高学年になるまでは、こんなことを考えずに、ほしいもの、食べておいしいものを食べていましたが、高学年になり、家庭科や理科や社会を勉強するようになって「何が大事なんだろうか」ということを考えるようになりました。ぼくたちの給食も地場産物を使っていることを知っていますか。ぼくは、最近こんだて表をみて気づきました。ぼくたち家族だけでなく、学校給食にかかわってくれている方々もいろいろ考えてくれているんだと思いました。